

分担研究報告
「愛知県における HTLV-1 キャリア妊婦の頻度」

研究分担者 杉浦 時雄 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学 助教
研究協力者 伊藤 孝一 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学 助教
佐藤新紀子 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学

研究要旨

愛知県における HTLV-1 キャリア妊婦の頻度を明らかにする目的で、HTLV-1 母子感染についてのアンケート調査を行った。回答率は分娩取り扱い施設 152 施設中 110 施設（72%）であった。HTLV-1 抗体検査を実施した妊婦 48,204 人中、スクリーニング検査陽性数は 117 人（0.24%）であった。Western Blot 法検査実施率は 62%（72/117）であった。Western Blot 法陽性は 34 人（0.07%）、Western Blot 法陰性は 49 人（0.1%）、Western Blot 法判定保留は 11 人（0.02%）であった。Western Blot 法判定保留のうち PCR 検査実施は 5 人で、そのうち 1 人が PCR 陽性（20%）であった。愛知県における妊婦の HTLV-1 キャリア率は 0.07%（35/48,204）であった。厚労省板橋班のコホート研究について知っているとは回答した施設は 61%、知らないとは回答した施設は 39%であった。板橋班における愛知県の研究協力施設を知っていると回答した施設は 49%、知らないとは回答した施設は 51%であった。妊婦が Western Blot 法で陽性である場合の授乳法については、人工栄養が 56%、短期母乳が 12%、冷凍母乳が 12%、専門施設に紹介が 21%、その他が 9%であった。愛知県では年間約 50 人の HTLV-1 キャリア妊婦が分娩すると推定される。

A . 研究目的

愛知県を含む東海地区は HTLV-1 の非流行地域と考えられているが、HTLV-1 キャリア妊婦の実際の頻度は不明である。愛知県における HTLV-1 キャリア妊婦の頻度を明らかにする。

B . 研究方法

平成 25 年に愛知県周産期医療協議会の協力のもと、HTLV-1 母子感染についてのアンケート調査を行った。対象期間は平成 24 年 1 月 1 日より平成 24 年 12 月 31 日の 1 年間とした。

C . 研究結果

回答率は分娩取り扱い施設 152 施設中 110

施設（72%）であった。HTLV-1 抗体検査を実施した妊婦 48,204 人中、スクリーニング検査陽性数は 117 人（0.24%）であった（図 1）。愛知県の平成 24 年の出生数は 67,913 人で、双胎を考慮しないと、愛知県の分娩数の 71%のデータとなる。Western Blot 法検査実施率は 62%（72/117）であった。Western Blot 法陽性は 34 人（0.07%）、Western Blot 法陰性は 49 人（0.1%）、Western Blot 法判定保留は 11 人（0.02%）であった。Western Blot 法判定保留のうち PCR 検査実施は 5 人で、そのうち 1 人が PCR 陽性（20%）であった。愛知県における妊婦の HTLV-1 キャリア率は 0.07%

(35/48,204)であった。現在、厚生労働科学研究「HTLV-1 抗体陽性妊婦から出生した児のコホート研究(研究代表者:昭和大学小児科 板橋家頭夫)」において、全国で登録事業が行われていることを知っていると回答した施設は61%、知らないと回答した施設は39%であった(図1)。厚労省研究班における愛知県の研究協力施設(安城厚生病院、トヨタ記念病院、公立陶生病院、一宮市立市民病院、名古屋第二赤十字病院、名古屋市立大学病院、豊橋市民病院)を知っていると回答した施設は49%、知らないと回答した施設は51%であった(図2)。妊婦がWestern Blot法で陽性である場合、授乳法についてどのように対応しますか?という質問に対しては、人工栄養が56%、短期母乳が12%、冷凍母乳が12%、専門施設に紹介が21%、その他が9%であった(図3)。

D. 考察

今回の調査で、初めて愛知県における妊婦のHTLV-1キャリアの頻度が明らかとなった。愛知県における妊婦のHTLV-1キャリア率は0.07%と高くはなく、愛知県は非流行地域といえる。しかし、少なくとも年間35人のHTLV-1キャリア妊婦がいることが明らかとなった。愛知県では年間50人のHTLV-1キャリア妊婦が分娩すると推定される。HTLV-1抗体陽性であっても、その後のWestern Blot法検査実施率は62%と低かった。Western Blot法実施者のうち陽性よりも陰性あるいは判定保留の数の方が多く、偽陽性率が高いことが問題となる。Western Blot法で判定保留となった11例中PCR検査まで施行されたのは5例と、半数以上はPCR検査が施行されていなかった。PCR検査の陽性率は20%(1/5)であ

った。愛知県のような非流行地域ではWestern Blot法で判定保留であってもPCR検査陰性となる可能性が高いと予想される。PCRは保険適応になっておらず、今後の保険収載が望まれる。

非流行地域であるが故に、厚労省板橋班のコホート研究についても4割は知らないと回答しており、その認知度は低かった。コホート研究への登録数もまだ少ない状況であり、周知する必要がある。さらに、愛知県の研究協力施設については半数が知らないと回答しており、実際にHTLV-1キャリア妊婦に遭遇した場合の研究協力施設との連携についても啓発していく必要がある。HTLV-1抗体の確認検査が陽性である場合、授乳法については、人工栄養が半数以上で多かった。

H25年度から愛知県においてもHTLV-1母子感染対策協議会が設立された。産婦人科医、小児科医、血液内科医、助産師、保健師がメンバーとし参加し、医療機関、保健所、行政と連携して、愛知県版のHTLV-1母子感染予防の手引きを作成中である。愛知県ではHTLV-1キャリア妊婦を1カ所に集約することは難しく、各地域での体制作りを行い、キャリア妊婦がどこの医療機関へ行けば良いのかも明確にする必要がある。また、愛知県における全例把握ができるように進めていきたいが、個人情報の問題が残る。

E. 結論

愛知県におけるHTLV-1キャリア妊婦の頻度は0.07%(35/48,204)であった。H25年度から愛知県においてもHTLV-1母子感染対策協議会が設立された。

F. 健康危険情報

特記事項はなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1) 杉浦時雄 HTLV-1 母子感染について
愛知県周産期医療従事者研修会 2013.2.2
厚生連海南病院

2) 杉浦時雄 HTLV-1 母子感染について
愛知県周産期医療従事者研修会 2013.2.23
一宮市立市民病院

3) 杉浦時雄 HTLV-1 母子感染について
愛知県周産期医療従事者研修会 2013.3.9
トヨタ記念病院

4) 杉浦時雄 HTLV-1 母子感染について
周産期医療機関関連会議 2013.3.12 江南
保健所

5) 杉浦時雄, 上田博子、伊藤孝一、長崎理
香、加藤丈典、齋藤伸治、鈴木正利 愛知県
における HTLV-1 母子感染の実態 第 49
回日本周産期新生児医学会 2013.7.16 横
浜

6) 杉浦時雄, 愛知県における HTLV-1 母子
感染の実態 愛知県 HTLV-1 母子感染対策
研修会 2013.8.27 名古屋

7) 杉浦時雄 HTLV-1 母子感染について

周産期医療講演会 2013.10.31 豊橋市民
病院

H. 知的財産権の出題・登録状況

なし

表1.

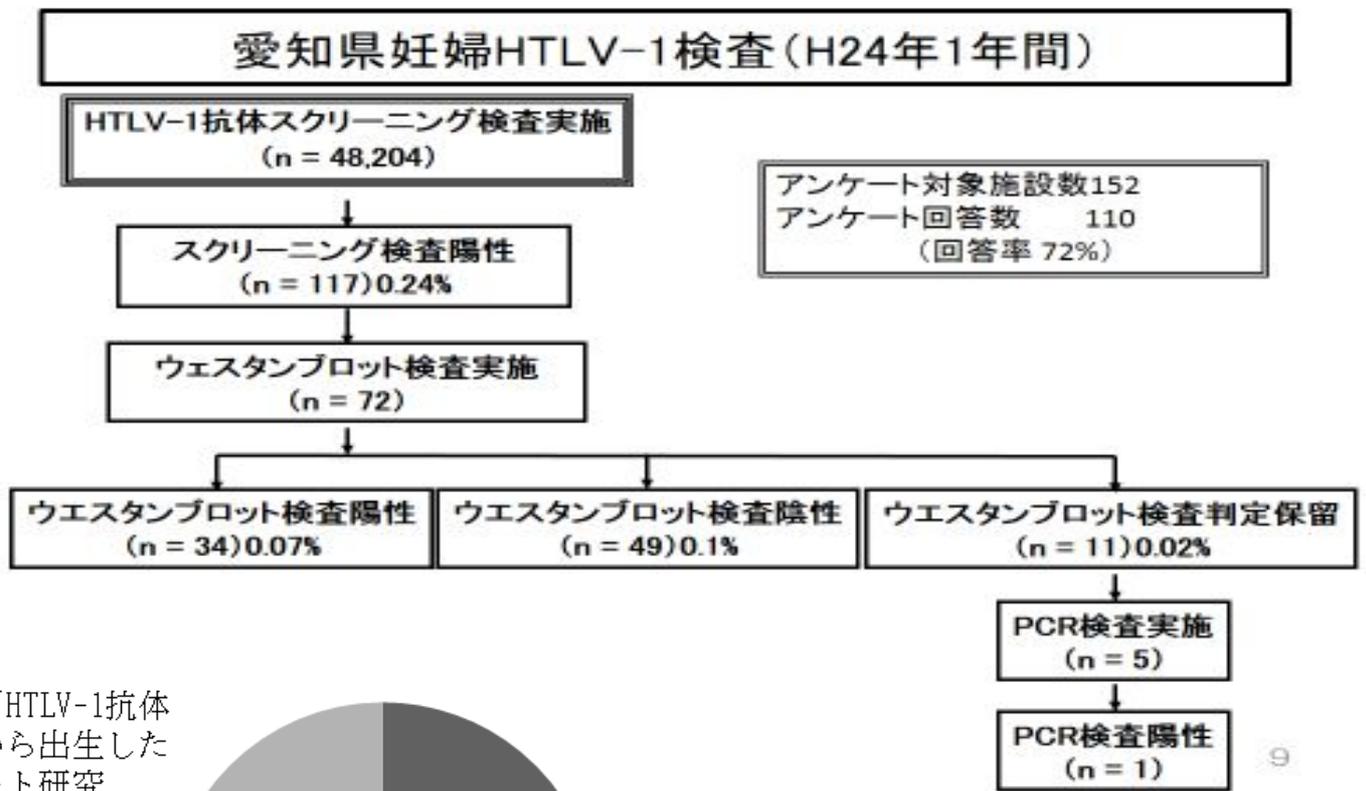


図1.
厚労科研「HTLV-1抗体陽性妊婦から出生した児のコホート研究（板橋班）」の全国登録について

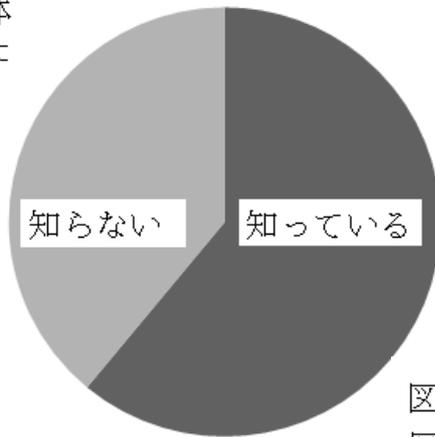


図2.
厚労省研究班における愛知県の研究協力施設

- 安城厚生病院
- トヨタ記念病院（申請中）
- 公立陶生病院（申請中）
- 一宮市立市民病院
- 名古屋第二赤十字病院
- 名古屋市立大学病院
- 豊橋市民病院

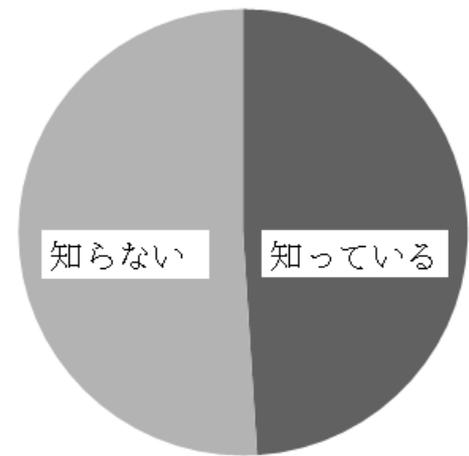
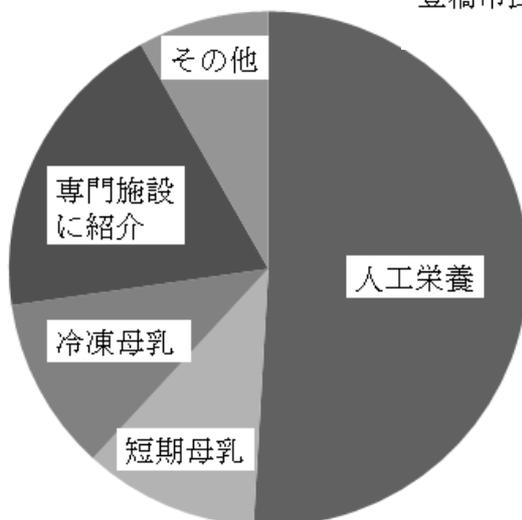


図3.
WB法陽性の場合の授乳法



研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
なし					